

ルームエアコンの JIS 検討委員会に意見書を提出 ～適正な性能評価と客観的検証を組み入れる大胆な JIS 改革を～

ヒートポンプ問題連絡会

本日1月31日、気候ネットワークなど環境団体や消費者団体など11団体で構成するヒートポンプ問題連絡会は、現在ルームエアコンの JIS 改正に向けて作業をしている「第2回ルームエアコン JIS 検討特別委員会（日本電気工業会主催）」において、JIS 改正にあたってのヒアリングに出席し、意見書を提出した。

ルームエアコンについては昨年、エアコンメーカーが、いわゆる“爆風モード”とよばれる測定を行い、カタログ表示をかさ上げしていたことが問題になったが、この問題に対して各メーカーは「JIS 規格に則って測定していた」と自らを正当化している。そのため、今回の JIS 改正では、適正な性能評価と客観的検証を組み入れる大規模な JIS 改革が求められている。

ヒートポンプ問題連絡会からは以下のような JIS 改正のポイントと指摘をしたところ、今回の委員会では、同じ方向性をもって検討を進めるということであった。連絡会としては、引き続き本件を社会にアピールするとともに、適正な改正が行われることを強く期待するものである。

報道各社におかれては、JIS 改正の重要性をふまえ、報道のご協力をお願いします。

◆ヒートポンプ問題連絡会で提出した JIS 改正のポイント

①性能試験方法について

- 性能測定条件に冷房時は適切な除湿の割合を、暖房時には吹き出し口の温度の下限を決めて追加し、騒音測定を加えること。
- 運転能力における定格許容限度を設けず消費電力や冷暖房能力などすべての表示値は保障値表示とすること。（現状では表示の 86%性能で許容）

②APF と冷暖房使用期間の設定等について

- ルームエアコンの実際の使用状況をふまえ冷暖房期間を見直すこと。
- 試験点を定格能力と中間能力だけではなく増やすこと。
- 実際の使用状況に近い試験を行うこと。
- 断続運転に伴う建物負荷を配慮すること。
- 地域ごとの実態を反映させた評価に変え、表示にも反映すること。

③冷媒フロン問題について

- フロンの放出が起きない製品規格（室内機側のバルブの取り付けなど）とすること。
- 冷媒の種類や量だけでなく、その温室効果についても表示すること（カタログも）。

④試験方法等の透明性・客観性の確保について

- 試験方法は原則公開し、第三者機関による客観的性能試験とすること。（再掲）
- JIS 規格に則った測定の情報はすべて公開し、検証可能なものとすること。
- 試験対象機器の選定方法についても、無作為となるような方法を記載すること。

*意見書本文（P9）は、気候ネットワークなど各団体の WEB サイト等に掲載する。

<連絡先>ヒートポンプ問題連絡会（気候ネットワーク事務局内）

TEL : 03-3263-9210 FAX : 03-3263-9463 Email : momoi@kiconet.org